

## 主イエスの十字架と復活の福音

コリント第一 15:1-5

「福音」とは「良い知らせ」という意味です。福音は、英語ではゴスペルで、これは“good spell”グッド スpell（「良いことを話す」）から来ています。福音は一般でもよく目にすることがあります。難しい病気に効く薬が発明されると「患者にとって福音だ」というようになります。しかし聖書が伝える「良い知らせ」は最高の「良い知らせ」です。なぜなら、それはあらゆる問題の原因である罪からの救いと永遠の幸いを私たちに約束するものだからです。

今朝の箇所には聖書の伝える「福音」とは何かということが短い言葉で要約されています。ここから、第一に、福音とは何か？ 第二に、福音はどれくらい素晴らしいのか、そして第三に、その福音への私たちの応答について見てゆきましょう。

## 1. 福音とは何か？

福音とは何でしょうか。今朝の箇所では使徒パウロは「キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、…」と言っています（3-4節）。福音のエッセンスを語るのに、パウロは「福音とは」ではなく「キリストは…」と切り出します。それは福音とは、戒めでも、教訓でも、物語でもない、もちろんお知らせやお得な情報でもない、それはイエス・キリストが、どのようなお方で、私たちのために何をしてくださったかということです。つまり福音の内容とは、キリストご自身ということなのです。

イエス・キリストについて語るのに、キリストが世のはじめから父と御霊とともにおられたこと、人となって世に来られたこと、数々の奇蹟を行い、人々を教えられたことなど、語るべきことは山ほどあります。しかし、パウロは、ここ、コリント第一 15章では、そうしたことをすべて省いて、「キリストは、死なれた、葬られた、よみがえられた」と言っています。キリストの福音を十字架の受難からイースターにかけての三日間に起こった出来事の中に要約しているのです。これは、十字架と復活だけがすべてで、他のことは知らなくて良いということではありません。しかし、イエスのご生涯の中心は、やはり、十字架から復活までの最後の三日間にありました。それまでの主イエスの三十数年の生涯は、この三日間のための準備だったとも言えるのです。

そればかりではありません。イエス・キリストが世においでになる前の長い歴史もまた、十字架と復活のための準備でした。文字通り B.C (Before Christ) キリストの前ということです。3-4節に「キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと」とあります。「聖書の示すとおりに」、「聖書に従って」と二度も繰り返されていますが、これは旧約聖書のすべてが、イエス・キリストの十字架と復活を預言していること、イエス・キリストの十字架と復活が聖書のすべてを成就し、完成していることを言っているのです。十字架と復活はじつに聖書全体のテーマ、主題なのです。

ですから、たとえ、イエス・キリストがどのようなお方で、何をなさり、どんなことを教えられたかを知っていても、もし、十字架と復活を知らなければ、それは福音を知っていることにはなりません。イエス・キリストが優れた人物であることを認め、イエスに見習おうとしたり、その教えを自分たちの生活に役立てようとはするけれども、イエス・キリストの十字架と復活を受け入れない人たちがいます。しかし、そこには人を救う福音はありません。「キリストは、死なれ、葬られ、よみがえられた。」ここに福音のすべてが詰まっていることを覚えたいと思います。

## 2. 次に福音の価値はどれぐらいのものでしょうか。

パウロは、「福音の価値、素晴らしさ」について、それは「最も大切なこと」だと言っています。「最も大切なこと」という言葉には、文字通りには「第一に来るもの」という意味があります。主イエスは「神の国とその義とを第一に求めなさい」と言われましたが、この「第一に」も「最も大切な

こと」も同じ言葉から来ています。福音、とりわけ、イエス・キリストの十字架の死と復活は、他のどんなことにもまさって大切なもの、あらゆることの中から第一にされなければならないものと聖書は教えているのです。

どうしてそこまで価値あるものと言われるのでしょうか？それは、福音が罪の赦しときよめを告げ知らせる唯一の良い知らせだからです。キリストの死は、不幸な偶然が重なったアクシデントでも、信念を貫き通したための殉教、英雄的な死でもありません。それは、罪びとである私たちのための身代わりの死でした。コリント第一 15:3 は十字架の死について、それが「私たちの罪のため」だったということをはっきりと書き、それを強調しています。

確かに、この世には様々な罪があります。しかし、ここで言う「私たちの罪」というのは、「人類の罪」や「世界の罪」といった一般的なものを指してはいません。この「私たち」というのは、キリストを信じる人々のことです。自分の罪を知り、その罪のために主イエスがあの十字架の苦しみを受け、死んでいかれたことを知っている人々です。パウロは、この「私たち」の中に自分を含めて、そう言ったのです。パウロは、いつでも、自分が罪びとのかしらであることを自覚していましたから、ここでは「キリストは、私と私と同じ罪びと仲間のために死なれた」と言いたかったのだらうと思います。パウロはキリストに出会うまでは、自分は正しい人間であることを信じて疑いませんでした。「イエスはキリストなんかではない」と信じて、教会を迫害していました。しかし、キリストに出会って、それが全く間違ったことであることに気がきました。人間の知識、判断、信念というものが、いかに小さいもの、間違ったもの、もろいものであるかを悟ったのです。そして、そうしたものの上に築いてきた自分の「正しさ」もまた、まったく頼りにならないものであることが分かりました。パウロは、人が「正しい」とされるのは、キリストの十字架と復活によることを知ったのです。主イエスが、私たちが受けるべき罪の報いを十字架の上で引き受けることによって、私たちのために罪の赦しを勝ち取り、復活によって私たちにご自分の義を与えてくださる、このことを信じる者が救われるのです。

パウロは、この福音を体験したとき、それまで、自分が積み重ねてきたことが、まるで値打ちのないものになってしまったと言っています。ピリピ 3:7-8 にこうあります。「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました。それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。」罪とは、誰が見ても「悪い」と分かる殺人や盗みなどの犯罪、不真面目でふしだらな生き方といったものだけではありません。パウロのように宗教的、道徳的に非の打ち所のない生活をしてきた人にも、神の真理に逆らって生きるという罪があるのです。「良い」と見えることも、それが「第一」のものにとってかわるとき、罪となるのです。

自分の罪が分からない人には、キリストの十字架と復活の素晴らしさは分かりません。自分の罪を知る人だけが、「キリストは<私たちの罪のために>死なれた」という福音を、何にもまさる第一のものとして愛することができるのです。聖書が言うようにすべての人は罪を犯していますが、その罪の中でも最大の罪は「自分には罪はない。自分は正しい」と主張する罪でしょう。そういう人は神に近づくことはできません。しかし、自分の罪を知る人は、赦しときよめを求めて神に近づきます。罪は人を神から遠ざけるものですが、自分の罪を知り、悔い改めることは、人を神に近づけるのです。

### 3. 福音への私たちの応答

福音は聞いた者に応答を求めます。というより、私たちが福音を聞き、心の中に取り入れた時、私たちは何もしないでいるのが難しくなると思います。「福音への応答」と言っても、福音は私たちに

できそうにもない難しい応答を要求してはいません。もし、そうなら、それは「グッド・ニュース」ではなくなってしまいます。福音は私たちに神の恵みを伝えるものです。私たちがしなければならぬことよりも、キリストが私たちのためにしてくださったことを語っています。神の恵みは常に私たちに注がれているのです。福音は昔、人を救う力があつたけれども今は無いということではありません。神の恵みは同じです。しかし私たちがその恵みを受け止めなければ何も起きません。ちょうど雨が降っても受けるものを用意しないと流れっぱなしになるようなものです。このことをパウロは「神の恵みをむだに受けないようにしてください。」コリント第一6:1と言いました。ですから私たちの応答としては少なくともキリストがしてくださったことを「受け入れる」という役割は残っているのです。1節に「兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があるあなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。」とあるように、福音は私たちにそれを「受け入れ」、「信じ」、そこに「立つ」ことを求めています。

また、福音は信じ、受け入れるだけでなく、それを伝えることも求めています。3節のはじめに「私があるあなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです」とあるように、パウロは自分がキリストと他の使徒たちから受けた福音を、コリントの人々に伝えました。こうして福音がキリストから使徒たちへ、使徒たちからその弟子たちへと受け継がれていくことが大切さなのです。ちょうど、リレーの競技で、バトンが最初の走者から次の走者へ、次の走者からまた次の走者へと受け継がれていくのと似ています。リレー競技では、バトンを引き渡すポイントから前後10メートル以内にバトンを手渡さなければなりません。その前でも、その後でも失格になります。オリンピックで400メートルリレー残念でしたね。正しくバトンを手渡さなければ、そこで競技は終わってしまいます。福音の場合も同じです。私たちが福音を自分の内側だけに留めていて他の人に伝えなければ、人々は救われないのです。また、私たちが福音を正しく受け取ることがなければ、それを次の世代に正しく伝えることができません。皆さんは「キリストが私たちの罪のために死なれ、葬られ、よみがえられたこと」という福音を正しく受けとっているでしょうか。もし、まだなら、あなたを救うこの福音を信じ、受け入れてください。あなたが、すでにそれを受け取っているなら、あなたはそれを誰に手渡すつもりでしょうか。福音は「グッド・ニュース」です。「ニュース」は伝えられてこそ意味があります。福音がどんなに価値あるものかがわかれば、きっと、伝えたくてしょうがなくなるはずです。方法や手段は幾らでも神様が与えて下さいます。福音を学び、福音に生かされ、福音を伝えていく、お互いでありたいと思います。